

館報 はだ



スージーちゃん スイカ7くん

令和7年7月1日現在

世帯数	6,436戸
人口	15,105人
男	7,317人
女	7,788人

11区 夫婦堤音楽祭

4月29日(火・祝) 中沢ゲートボール場において、夫婦堤周辺を日頃から整備している山毛櫨の会主催で「夫婦堤音楽祭」が開催されました。今年で24年目、20回目の開催となります。

小鳥の鳴くさわやかな朝に、続々と出演者の皆さんが集まってくる中、前日から準備していたスタッフも会場や駐車場の整理に走り回っています。



波田中学校美術部による「夫婦堤音楽祭」のステンドグラスと音楽をモチーフにした大きな貼り絵が会場を彩ります。来賓挨拶の後、波田中学校合唱部の美しいハーモニーと同吹奏楽部の迫力ある演奏に魅了された観客からは大きな拍手が送られます。

そして、ベルギー音楽祭で特別金賞に輝いた波田少年少女合唱団OGによる、表現力豊かで透き通るような歌声。波田少年少女合唱団全員を交えての合唱に、会場は拍手と笑顔に包まれます。最後は美術部と出演者全員

がステージに集まり、会場の皆さんと「大いなる波田」の大合唱で幕を閉じました。いつまでも続いて欲しかった夫婦堤音楽祭ですが、部活動の地域クラブへの移行や山毛櫨の会メンバーの高齢化などの理由で、今年が最後の音楽祭となりました。



平成14年から続くイベントの幕が下ろされたことは非常に残念ですが、子ども達の良い表現の場であり、地域の人達との交流の場でもあった夫婦堤音楽祭が、いつの日か復活することを願っています。

オオハンゴンソウの駆除

6月7日(土)、波田まちづくり協議会員による「オオハンゴンソウ」の駆除が実施されました。計17名が8時30分に波多神社にツルハシやスコップを持って集合し、打ち合わせ後、車に乗り合わせて現地へ向かいました。

波田地区では水沢地籍(若澤寺跡周辺)で繁茂しており、国有林の林道沿い2ヶ所で確認されています。林道を進むとゲートがあり、その先が第1ポイント、さらに約1キロ進んだ場所が第2ポイントとなります。

オオハンゴンソウは北アメリカ原産のキク科の植物で「特定外来生物」に指定されており、生態系などに被害を及ぼすとして、栽培や販売など原



作業前の打ち合わせ

則的に禁止されています。生命力が強く、根が残っているとそこから再生します。この事業は令和5年度に希少動植物を調査・保存している団体が、環境調査の際に繁茂しているのを確認し、波田まちづくり協議会地域連携部の協力を得て、令和6年度から実施されています。



駆除の様子

繁茂地に到着すると、林道に沿って駆除が始まり、道具や手で引き抜いていきます。この時期は他の植物との見分けも難しく、一本一本抜いていく地道な作業です。オオハンゴンソウは花が咲く前に根こそぎ駆除するのが肝要です。葉・茎を切り取り、根だけを集め、約2時間の作業でゴミ袋10袋分駆除しました。

今後も活動を継続して行いますので、関心のある方のご参加をお待ちしております。

仁王尊股 くぐり祭

波多神社と並んでひっそりとたたずむ阿弥陀堂。1年に2日だけ賑わいを見せる日が仁王尊の股くぐり祭です。

今年は4月19・20日に開催されました。仁王門に納められている木造金剛力士像は長野県宝に定められており、この仁王尊の股をくぐると「はしかが軽く済み丈夫に育つ」という言い伝えから、子ども達の健康を願う多くの家族連れが訪れます。県外ナンバーの車も多くみられ、その盛況ぶりが伺えます。



麻績村から訪れた方は、「私は子どもの頃、この下の測東保育園に通っており、みんなで股くぐりに来ました。子どもが出来たら同じようにくぐってもらいたいと思います、今日は

ワクワクしながら来ました。案の定大泣きでしたが元氣な泣き声でしたので、きつと丈夫に育ってくれると思います、とても安心しました。来てよかったです。」と満足そうでした。きつとこのような形で親子から子、子から孫へとつながっていくのでしょうか。



上波田高齢者クラブの藤澤さんにもお話しをお伺いしました。「元々は地区の有志が立ち上がり、仁王尊股くぐり実行委員会ができ、開催したのが発端で、今年で35回になる。波田まちづくり協議会と地域づくりセンター・公民館の応援をいただいでここまでやっていくことができました。高齢者クラブの会員も少なくなってきており、現在34名。地区の小学生にもお手伝いいただきながら、毎年350名程の参加者を迎えています。なんとかこれからも続けていきたい。」とのことでした。

27区 町会清掃活動



6月7日(土)、町会の広場にて27区町会清掃活動のイベントを行いました。好天に恵まれ、多くの方にご参加いただきました。毎回恒例ですが、各家庭を出発して町内を好きなコースでゴミ拾いをし、チラシでお知らせしたゴミ回収場所まで来ていただきます。

その後、参加者へお礼として、拾ったゴミと引き換えに、記念品のごみ袋・飲み物と交換し、個別解散という流れで実施しています。ご協力いただいた皆さんに、楽しく交流していただくことを目的としています。



子ども達も楽しそうにごみ拾いをしていましたが、「これしかなかったよ。」と時々寂しそうに言う子もいました。そんなときは、「ごみを捨てないからきれいなところなんだね。」と返すと、嬉しそうな顔に変わったのが印象的でした。一部の方には除草もお手伝いしていただき、よりきれいになりました。本町会ではこの時期と秋にも実施予定です。



毎年住民が増えている中、このようなイベントを通して地域の人達と顔を合わせて挨拶をし、笑顔があふれる町会が続くよう願っています。

この先はコロナ禍で中断していた炊き出し訓練等、ごみ拾いと並行して再開を考えています。公民館施設を持たない27区町会は、このような野外イベントや、既存施設を使用した活動が中心となっています。

20区 四辻の守



波田駅東、朝の交差点。そこには変わらぬ姿があります。平成17年の「こども見守り隊」から始まり、今は「少年警察補導員」として20年間、83歳になった今もここに立ち続ける平林さんです。

登校中の児童に「おはよう！」と元氣な声が届きます。子ども達の育つ環境の変化に戸惑い、接し方に疑問を感じるときもあるといいます。

しかし、その眼差しは常に優しく、子ども達の安全を願う気持ち伝わってきます。「気をつけて！」と声を掛け、横断歩道を渡り終えた子ども達、見送る平林さんの顔には柔らかな笑みが浮かびます。

長年の活動で、子ども達にとってお爺さんのような存在になっているのでしょうか。ドライバートとっても、大変大きな助けとなっています。

